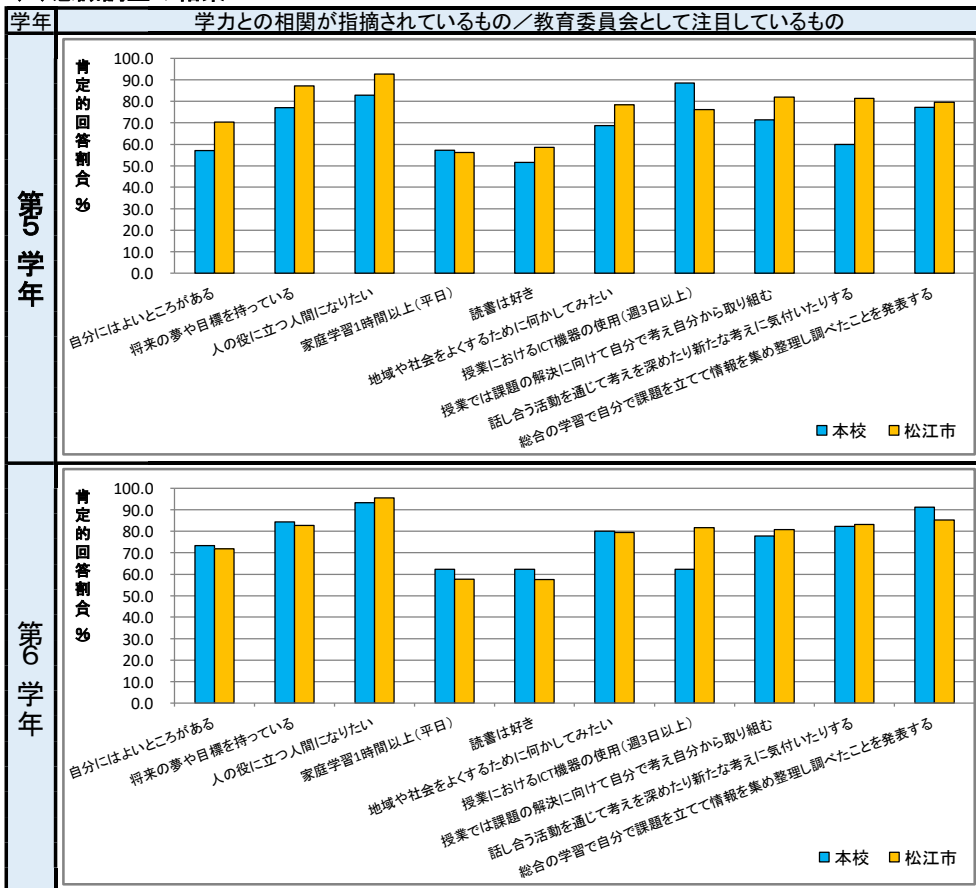


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(→)
第5学年	国語	成果 ○「情報の扱い方に関する事項」において正答率が比較的高い。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることはできている。	・漢字がもつ意味を知り、熟語や文の中で使える力を付けさせるために、新出漢字の学習方法や漢字テストの出題方法を工夫する。 ・様々な教科において、自分の考えを言葉や文で書く活動を継続して取り入れる。
		課題 ●漢字を正しく使うことや漢字の由来を理解することに課題がある。 ●調査後半での無回答率が増えており、特に記述問題では正答率が低い。	
	算数	成果 ○「数と計算」領域において最小公倍数を求める問題や小数倍の文章問題で立式の正答率が比較的高い。 ○平均を求める計算は概ね身に付いている。	
		課題 ●分数や小数の計算手順は理解していても、約分をしていなかったり、小数点の位置を間違えていたりするなどの誤答が目立つ。 ●「図形」領域での正答率が低い。	
第6学年	国語	成果 ○「情報の扱い方に関する事項」領域において全国推定値を上回っている。 ○「書くこと」の領域において無回答がなく、他教科でも自分の考えとその理由を書く活動を繰り返したことや、作文を家庭学習として継続したことなどの成果が表れている。	・成績上位層ほど「読書が好き」と回答している児童が多いことから、本や新聞などを活用して文章の構成にも着目しながら、書かれていることの概要を決められた時間の中で読み取る活動を取り入れる。 ・なんとなく文章を読むのではなく、言葉の意味を理解した上で読むことができるよう、家庭学習等で語句の意味調べを課題にするなどして語彙を増やす。
		課題 ●「説明文を読む」内容での正答率が、他の内容と比較して低い。 ●調査後半での無回答率がやや増えている。	
	算数	成果 ○「変化と関係」「データの活用」「図形」領域において推定全国値を上回っている。特に「対称な形」の内容の正答率が高い。 ○分数のかけ算・わり算の基本的な計算問題を解くことができる児童がほとんどである。	
		課題 ●「文字と式」の内容において、正答率が全国推定値を下回っている。 ●理由を説明する記述問題において、算数用語を使うことはできているものの、必要な事柄を十分に取上げて説明することに課題がある。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 授業の中でタブレットを活用することに慣れつつある。
- ペア対話などによる意見交流の場を設定し、自分と異なる考えに触れる機会を増やしていく。

【第6学年】

- 自分で課題を立てて情報を集めてまとめたり、問題解決しようとしている児童の割合が高い。
- 授業時間におけるICT機器の有効活用を積極的に進めていく。

【R7学力調査受検者数】

第5学年	35	名
第6学年	45	名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示